

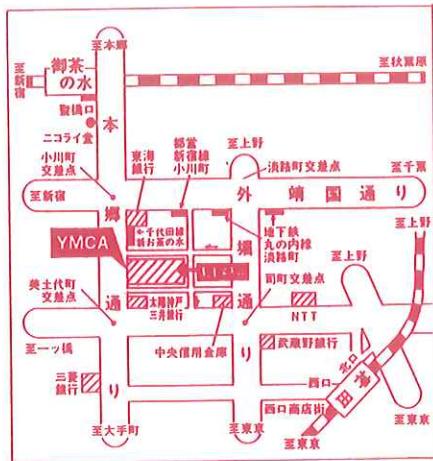
参加対象 教員および教育関係者

定員 基調講演=120名、研修=150名

参加費 3000円 (基調講演のみの参加は1000円)

昼食代 1000円 (30日の研修に参加する人のみ) ※なお、なるべくゴミを出さないように、お弁当を持参いただける方はお願いいたします。

★申込受付後に、振込先を通知いたします。



■東京YMCA国際奉仕センター

JR

- 神田駅 出口 (西口、北口)
- 御茶の水駅 出口 (聖橋口)

地下鉄

- 丸の内線 淡路町駅 出口 (A-2・A-4)
- 千代田線 新お茶の水駅 出口 (B-6)
- 都営新宿線 小川町駅 出口 (A-6)
- 銀座線 神田駅 出口 (北口)

〒114 東京都北区田端1-21-18津田ビル1F ERIC「グローバル・セミナー」係 ☎03-5685-1177

★参加ご希望の方は、別紙の申込書にご記入のうえ、下記の住所宛にお送りください。

後援 文部省、全国高等学校長協会、東京都教育委員会(予定)、  
 全国高等学校国際教育研究協議会、開発教育協議会、  
 日本ユニセフ協会、帝塚山学院大学国際理解研究所

開催日程 1994年1月29日(土)~30日(日)  
 会場 東京YMCA国際奉仕センター 東京都千代田区神田美土代町7-1 ☎03-3293-7011

主催 (社)日本ユニセフ協会連盟  
 日本国際理解教育学会  
 国際理解教育・資料情報センター(ERIC)  
 東京YMCA国際奉仕センター



# 1994.1.29-30 SEMINAR

国際理解教育研修プログラム「グローバル・セミナー」開催のご案内

# GLOBAL

## [開催主旨]

ますます深刻さを増す環境問題や格差が広がるばかりの南北問題など、地球規模で解決しなければならないさまざまな課題が山積みする現在、一人ひとりが「地球市民」として自覚を持って考え行動することが強く求められています。このような状況を背景に、教育の国際化が叫ばれ、英語教育や帰国子女教育などの実践が行われていますが、1974年のユネスコ国際教育勧告がいうところの、環境、人権、開発、平和等の分野をカバーした広い意味での国際理解教育の取り組みは、現在の日本において未だ十分に行われていたとは言えません。

一方、イギリス、オランダ、オーストラリア、アメリカなどでは、教育現場（学校教育、社会教育）でさまざまな形の国際理解教育が展開されており、その実績には目をみはるものがあります。それらの成果の一部は日本にも紹介されるようになりましたが、必ずしも十分ではありません。

このような状況のもとに、第二次大戦直後から民間運動として国際理解教育の普及振興に取り組んできた(財)日本ユネスコ協会連盟、国際理解教育に関わる国内の人的ネットワークと研究・実践の促進を主な目的として1991年1月に設立された日本国際理解教育学会、青少年育成・国際協力活動等社会教育の推進に110余年の歴史をもつ東京YMCA、そして内外の実践紹介を中心に、国際理解教育の情報提供および研修を実施している国際理解教育・資料情報センター(ERIC)の四団体が協力して、真の「地球市民」を育てる教育方法を学ぶ研修を実施することになりました。

今回のセミナーは、海外の国際理解教育の実践者から直接話を聞くだけでなく、模擬授業の形で体験を通して、その内容を十分に吸収理解し、日本での実践への道を探ろうというものです。そしてさらに、このような研修の積み重ねを核に、日本における国際理解教育の内容を深め、その普及を推進しようというものです。

## PROGRAM

### 1月29日(土)

- 13:30 受付開始
- 14:30 開会
- 14:40 基調講演  
・中野重人「伝統的な教え方からの脱皮 — 一斉指導から多様な指導へ」
- 15:20 質疑応答
- 15:45 休憩
- 16:00 研修1 (テーマ別)  
①誰にでもできる国際理解教育の様々な手法を体験  
キャサリン・マクファーレン  
②国際理解教育のベース (セルフ・エスティーム、コミュニケーション、協力) を身につける。  
スーザン・ファウンテン  
③身近な対立を解決する方法を体験 / ケリー・ミュレイ  
④イギリスの開発教育教材「ダッカからダンディーへ」を日本風にアレンジすると 小貫 仁
- 19:00 終了

### 1月30日(日)

- 9:00 研修2 (講師、内容共に研修1のつづき)
- 12:00 研修3  
グループづくり
- 12:15 昼食
- 13:15 研修3 (つづき)  
研修1&2を参考にしながら自分たちの授業・活動案をつくってみる…  
そして、実際にやってみる
- 16:15 反省と閉会
- 16:30 終了

# GLOBAL SEMINAR

## ●講師紹介

### 中野 重人

1937年鹿児島県生まれ。公立中学校教諭、宮崎大学講師・助教授を経て1979年より文部省教科調査官。1979～1989年社会科担当、1989～1992年生活科担当。1991年より文部省視学官として現在に至る。

主な著書に「社会科評価の理論と方法」(明治図書)、「生活科の授業づくりQ&A」(明治図書)、「生活科教育の理論と方法」(東洋館出版)など。

### Catherine McFarlane

キャサリン・マクファーレン (イギリス)

小学校の教師を経験した後、バーミンガム開発教育センター(DEC)のスタッフとして開発教育/グローバル教育の様々な教材を過去10年間開発している。最近では、環境教育、地理、理科などの分野の教材も開発。DECは、イギリスに数ある開発教育センターの中で、最も積極的に教員研修と教材開発を行っている。主な著書は、「THEME WORK」「WHY ON EARTH?」「IT'S OUR WORLD TOO!」など。

### Susan Fountain

スーザン・ファウンテン (アメリカ)

現在、国連ユネスコのコンサルタントとして、各国ユネスコ協会の開発教育担当者の研修を実施したり、マニュアルを執筆している。幼稚園および小学校低学年レベルで長年教えた後、スイスのジュネーブにあるインターナショナル・スクールでも教えていた。イギリスのヨーク大学で修士レベルの論文を書く。その評価が極めて高く、イギリスの世界自然保護基金(WWF)から「LEARNING TOGETHER (GLOBAL EDUCATION 4-7)」として出版されている。

### Kerrie Murray

ケリー・ミュレイ (オーストラリア)

現在、対立の解決 (Conflict Resolution) ネットワーク コンサルティング グループ代表教師。様々な民間団体や行政や企業を対象に、より効果的な会合やコミュニケーションの持ち方、対立の解決、ストレスの管理など多様な研修プログラムを実施している。ちなみに、来年は国際「寛容」(Tolerance)年とか。一方、大学

時代には日本語を学んだほどの日本語通。

主な編著に「対立の解決トレーニング マニュアル」など。

### 小貫 仁

埼玉県立川越南高等学校教諭。社会科の教職をとる傍ら、国際理解教育・開発教育に強い関心を持ち、市民運動に積極的に取り組んでいる。1992年12月～1993年1月にかけて日本ユネスコ協会連盟の主催するバングラデシュへの高校生ワークキャンプに参加し、バングラデシュ農村の現実に出会った。現在、開発教育協議会の理事をボランティアで引き受け「知る」「考える」「活動する」を自ら実践している。

教材作成では、イギリスの開発教育教材「DHAKA TO DUNDEE」の翻訳勉強会を通して、生徒を主体とした新しい教育方法の導入に力を注いでいる。